

連

載

レファレンスコーナー (閲覧室から)

参考相談係では宮崎県外の方から時々郷土に関する様々な質問をお受けしています。

先日宮崎市出身の方から次のようなメールをいただきました。

「故郷を離れて40年以上になります。子供の頃、泳いだり釣りをした大淀川や橋橋の中央から見た霧島連山に沈む夕日は忘れがたいものです。大淀川と橋橋の命名の由来について教えてください。」というご質問でした。

まず宮崎県大百科事典で調べてみましたが、大淀川の名前の由来については、何も書かれていません。次に「大淀川の歴史」（建設省宮崎工事事務所発行）を見てみました。

根拠となる史料は何もなくて現状では推測でしかわからないと書かれています。それによると次のような記述がありました。

一説には小戸が大淀になま訛ったものだとする説です。『古事記』の「上つ巻」には、伊邪那美命を追いかけ行つた伊邪那岐命が黄泉の国から帰って来て、命は「自分は随分ときたない国に行ってきた。禊をしようと思う」と仰せられて、筑紫の日向の橋の小門の阿波岐原においでになり、「上流の方（上つ瀬）は瀬が速い。下流の方（下つ瀬）は瀬が遅い。」と仰せられて、真ん中の瀬（中つ瀬）に下りて身をお洗いになったがその時多くの神がお生まれになったとあります。この小門が小戸であり、上つ瀬、中つ瀬、下つ瀬が三ノ瀬です。「筑紫の日向の橋の小門の阿波岐原」がどこであるかについては、歴史学的には固定されていないようですが、宮崎には同じような地名があり、そこには三ノ瀬がありそうな大きな川があって、日向の人たちは大淀川の下流こそは「筑紫の日向の橋の小門の阿波岐原」だと信じてきたようです。「日本書紀」にも同じような内容が書かれています。（建設省宮崎工事事務所発行「大淀川の歴史」より）



1888年（明治21）架けられた橋橋

～参考文献～

宮崎県大百科事典（宮崎日々新聞社刊）

このように係では身近な疑問や質問に対して、資料の紹介をしたり本を探すお手伝いをしていますが、普段何気なく通っているふるさとの橋や川の名前の由来などを調べてみるのも楽しいものです。



現在の橋橋

【レファレンス：reference】とは英語で**参照・参考・調査**という意味で、調査・研究に必要な資料を紹介したり、本を探すお手伝いや利用者の質問にお答えする仕事です。